百口城主プロジェクト～丸岡城を核とした参画型まちづくりの展開～

取組のあらまし

取組団体　福井県坂井市

取組内容　地域資源である「丸岡城」に関心を寄せる層を、地域課題の理解者かつ協働主体として位置付ける仕組みを構築。城主による提案事業やファンミーティング等の実施で地域活性化を図る。

推進体制　３名（令和７年度）

1　福井県坂井市の概要

人　　口	88,430 人	令和７年１月１日現在（住民基本台帳）
職員数	582 人	令和７年４月１日現在（一般行政部門）
総面積	209.67 ㎢	令和７年 10 月１日現在（国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」）

図表 1　福井県坂井市の位置図

出所：坂井市ホームページ

2　取組の背景・目的

坂井市は、福井県北部に位置し、平成 18 年に旧三国町・坂井町・春江町・丸岡町の四町が合併して誕生した。市域には、現存 12 天守の一つとして知られる丸岡城をはじめ、三国湊に受け継がれる歴史文化、肥沃な農地とそれを育む九頭竜川の流れなど、多様な自然・文化資源が広がっている。坂井市では、平成 20 年から「寄附による市民参画条例」を制定し、寄附金の使い道を市民から募集し、市民を含む検討委員会で決定する「寄附市民参画制度」に取り組んでいる。丸岡城に対しても、同制度に基づき寄附金を募っているが、丸岡城をより魅力的にする具体的な事業が不足していると感じていた。

また、丸岡城を訪れる人々の中には、歴史や城郭文化に強い関心を持つ層が一定数存在し、地域外に居住しながらも丸岡城に高い愛着を寄せる者も多い。一方で、このような関心を持つ地域外の層が地域課題の解決に主体的に関わる仕組みが十分には整備されていなかった。地域の魅力向上を行政のみで担うのではなく、丸岡城に関心を寄せる人々が地域づくりに参加できる環境を整えることに課題感があった。

こうした背景を踏まえ、坂井市は令和元年に「継続寄附による百口城主市政参画プロジェクト」（以下、「百口城主プロジェクト」という。）を創設した。

3　取組内容

(1) 制度の基本理念

百口城主プロジェクトの名称には、「一口城主」としての寄附にとどまらず、寄附者が丸岡城と長期的・継続的に関わり続ける関係を築きたいという市の理念が込められている。単発の支援者としての関係ではなく、寄附者が丸岡城の価値向上に主体的に関わり、行政とともに地域の未来を形づくるパートナーとなることを期待して制度化されたものである。「一口」で終わる関係ではなく、象徴的に「百口」に及ぶほどの持続的なつながりを育むことを目指し、百口城主（以下、「城主」という。）とした。市は城主を単なる支援者ではなく、丸岡城を中心とした地域づくりに参画する主体として位置付け、この理念が、寄附者との継続的な交流、参画機会の提供、城主の提案を施策に反映する仕組みへと具体化され、制度全体の根幹を成している。

(2) 関係性深化に向けた取組

城主が歴史的背景や現地の課題を適切に理解できるよう、市は毎年度、ファンミーティングや現地ツアー、交流イベントなど多様な接点を設け、城主と地域（地域住民・高校生・市民団体など）が協働的に関わる機会を拡充してきた。

オンラインでのファンミーティングは、年度方針の共有や施策案の意見交換の場として機能し、行政と寄附者の距離を縮める重要な仕組みとなっている。加えて、地元高校生や市民団体が参加することで、多世代・多主体が関わる学びと交流が生まれ、寄附者が地域社会の一員として受け入れられる環境が醸成されている。

現地ツアーや特別体験企画は、丸岡城の歴史的価値や文化資源を体感的に理解する機会を提供し、寄附者の愛着を強める効果を持つ。地域住民とともに城下町を巡る体験や、イベント企画への参加を通じて、寄附者は自らの提案が地域と連動していく実感を得ることができる。これにより、制度は寄附者の継続的参加を誘発する循環を生み出している。特に令和元年度から実施している現地ツアーは、城主が丸岡城の歴史的文脈や空間的特徴、また周辺整備における具体的課題を直接把握する機会となり、提案形成に必要な基礎的理解の深化に大きく寄与している。

図表 ２　現地ツアーの様子（左：令和６年度 １日城主ツアー/右：令和５年度 百口城主御成りツアー）

出所：坂井市ホームページ「百口城主プロジェクト 過去の取り組み」

（3）城主による提案事業

令和元年度から令和 2 年度にかけては、城主から寄せられた提案を基に複数の事業が採択され、丸岡城の歴史的価値向上と来訪者体験の充実が図られた。

令和元年度の採択事業である丸岡城周辺サイン整備（寄附金活用額 460 万円）では、まち歩きマップを制作した。制作にあたり、城主・地域住民・地元高校生を交えたワークショップを数回経て中身を検討。丸岡城下の飲食店や歴史スポットが掲載され、地域の動線を把握しやすくなり、丸岡城周辺の回遊性向上に寄与した。さらに、同年度に採択されたレンタサイクル事業「きゃっチャリ」（寄附金活用額 1800 万円）は、丸岡城と周辺観光地を結ぶ移動手段として構想され、令和 3 年に運用が開始された。レンタサイクルとスマートフォンアプリを組み合わせた仕組みにより、観光スポット案内やスタンプラリー機能が提供され、丸岡エリアの周遊性の向上に大きく貢献した。城主の提案が、来訪者の利便性と体験価値の向上に直結した象徴的な事例である。

令和２年度に採択された城下町の賑わい創出「丸岡城プロジェクションマッピング」では、花堤灯による演出や幻想的な光による演出で、丸岡城周辺における夜間の回遊性向上が図られた。

これらの取り組みは、丸岡城が持つ特色を体験的に理解させる役割を果たし、文化資源としての再評価にもつながった。

図表 ３　レンタサイクル事業「きゃっチャリ」

出所：ふるさとチョイス「百口城主 ふるさと納税特設ページ」

図表 ４　城下町の賑わい創出「丸岡城プロジェクションマッピング」の様子

出所：坂井市提供資料

4　成果・課題

(1) 本取組の成果

百口城主制度の最も大きな成果は、寄附者の提案を行政施策へ直接反映させる仕組みが確立し、丸岡城の魅力向上に資する複数の事業が実現した点である。城主の意見を起点に、まち歩きマップ制作、レンタサイクル事業などの施策が順次採択され、来訪者の理解促進や回遊性向上といった効果を生み出した。寄附者が自らの提案が具体的な整備として実装される過程を確認できたことは、制度への信頼を高めるとともに、主体的に関与する意識を醸成した。

また、現地ツアーや特別体験企画、オンラインを含むファンミーティングなど、多様な交流機会が継続的に提供されることで、城主と地域住民、関係団体との間に相互理解と協働の関係が育まれた。これらの取り組みは、単なる寄附制度にとどまらず、地域を継続的に支える関係人口の形成に寄与している。あわせて、市が寄附金の使途や事業の進捗を丁寧に共有してきたことは制度運営の透明性を確保し、城主が安心して参画し続けるための基盤となった。

このように百口城主プロジェクトは、行政と城主が協働して地域資源の価値向上を図る新しい参加型モデルとして成果を上げており、丸岡城を核とした地域の活性化に着実に寄与している。

(2) 課題と今後の展望

百口城主制度の運用においては、寄附者から寄せられる多様な提案を行政計画と整合させつつ施策化する必要があるため、一定の調整負担が生じる点が課題となる。提案内容は城主の関心や視点を反映している一方で、実現可能性や予算、周辺整備との整合性を踏まえた検討が不可欠であり、市は城主の期待を損なうことなく制度を円滑に運用する調整力が求められる。また、城主の継続的な参画を促すためには、城主との関係性を維持・深化させる取り組みが重要である。そのため、毎年工夫を凝らした現地ツアーの実施や、オンラインを含む交流の機会を設け、地域住民との多様な交流の場を設けることが求められる。

制度の成熟にあわせて、城主との繋がりや提案を地域の未来像と結びつけながら展開していくことで、より一層の地域の魅力創出への寄与が期待される。

関連・参考資料

坂井市ホームページ「百口城主プロジェクトについて」
https://www.city.fukui-sakai.lg.jp/kikakuseisaku/hyakkutijyousyu.html
坂井市ホームページ「百口城主プロジェクト 過去の取り組み」
https://www.city.fukui-sakai.lg.jp/kikakuseisaku/shisei/kifu/furusato/hyakkuchijyoushu/hyakkutijyousyukako.html

ふるさとチョイス「百口城主 ふるさと納税特設ページ」
https://www.furusato-tax.jp/feature/detail/18210/3989?city-product_original
総務省『令和元年度 「関係人口創出・拡大事業」モデル事業 （関係深化型・関係創出型） 成果報告書』（令和２年３月）p.66-p.73
https://www.soumu.go.jp/main_content/000688673.pdf